



未来へつなごう！多様な生きものをはぐくむ場 〔おおいたの重要な自然共生地域〕

項目	基礎情報
市町村名	国東市
地域名等	国東・宇佐の世界農業遺産を象徴する荒木川流域の里山景観
特徴	里地・里山に見られる貴重な生態系・生物群集
地域の概要・特徴など	安岐町を流れる荒木川(安岐川支流)流域は、国東半島宇佐地域世界農業遺産の理念「クヌギ林とため池がつなぐ“農林水産循環”」を象徴するように、山側にはシイタケ栽培用のクヌギ林が広がり、全流域にため池が複数点在している。そのため、シイタケの林産物、水稻やシチトウイ等の農産物が豊かで、多様な野生生物が生息する里山景観となっている。
生物情報	①植物：ミズマツバ(VU)、ジシバリ、ウキクサ、サギゴケ、ヨモギ ②両生類：オオイタサンショウウオ(VU)、トノサマガエル(NT)、ツチガエル ③爬虫類：ニホンイシガメ(VU)、ニホンマムシ、ヤマカガシ、ニホントカゲ ④鳥類：サシバ(VU)、サンコウチョウ(NT)、キビタキ(NT)、エナガ、メジロ
その他情報	荒木川流域プロジェクト実行委員会では、荒木川の全流域を対象にした環境保全・環境教育・環境福祉活動を行っている。荒木川の上流域～河口までの生物調査、ハマボウフウ(河口)の保全活動、学校教育や社会教育のバードウォッチング事業、荒木川の自然を活かした環境福祉活動等を行っている。
地域の保全・啓発活動団体名	荒木川流域プロジェクト実行委員会
メールアドレス	sankaku@oct-net.ne.jp
構成員数	12名
代表者氏名	代表：中野昭純
事務局担当者名	事務長：莊司壽子(社会福祉法人共生荘 障がい者サポートセンター三角ベース 理事長)
主な活動内容	荒木川流域プロジェクト実行委員会は、荒木川の全流域を対象にした環境保全・環境教育・環境福祉活動を行っている。特に、事務局の三角ベースは障がい福祉施設のため、利用者の社会復帰を目的として、利用者に安全な自然環境配慮型の“農・福”連携＝“農・福・環”連携を実践してきた。また、上流域の耕作放棄地の一部を買い上げ(トラスト活動)、利用者の活動場所として“農・福・環”連携による自然栽培を継続的に実践している。

